

「学ぶ力」	
実態	成果
実態	<p>◇生徒アンケートの結果から「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」生徒の割合が8割を超えている。また「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」生徒の割合も8割を超えている。</p> <p>◇授業だけではなく様々な取組を通して他者と協働し、お互いのよさを認め合い、自己肯定感や有用感を感じながら課題解決に向けて学習を深めることができたと考えられる。</p>
	<p>◇授業や活動に前向きに取り組んだり、積極的に交流したりする様子は見られるが、「自分の意見を進んで発言しようとしている」生徒の割合が6割を下回っている。他者と対話したり協働したりする活動や場の充実が課題である。</p> <p>◇定期テストに向けて計画を立てる活動に取り組んでいるが、「自分で計画を立てて勉強している」生徒の割合が5割を下回っている。定期テストの期間以外にも計画的に学習に取り組むことが課題である。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇共通指標アンケートで、「自分にはよいところがある」「人のよいところを見付けようとしている」生徒の割合はともに8割を超え、肯定的な回答の割合が増加傾向にある。ただし、「自分が必要とされていると感じる」生徒の割合が7割程度に停滞している。</p> <p>◇学校全体の取組の中で相互評価の場をより多く設定し、自分に自信をもてるような機会を増やしていくことが重要である。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 「課題探究的な学習」と「自主的な活動」を両輪とした取組を通して主体的に学びに向かう力の育成	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>(1) 題材のねらいや目標を理解し見通しをもって学習に取り組むことができる学習展開の工夫</p> <p>(2) 自分の学習課題が見付けられ、主体的に課題を追求することができる学習展開の工夫</p> <p>(3) 他者との対話や協働的な学びを通して思考を再構築することができる学習展開の工夫</p> <p>(4) 自分の学びを振り返り、更なる学びにつなげることのできる学習展開の工夫</p>
取組	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>① 生徒会活動や委員会活動を中心とする「生徒が主体」となる活動機会の充実</p> <p>② 学校行事やボランティア活動を通して、地域や家庭とともに生徒の成長を支え楽しむ機会の充実</p> <p>③ 学校評価の生徒・保護者向けのアンケート調査を教育活動の充実に活かすことができる仕組み作りの充実</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
	<p>◇主に(3)や①について、取組や活動がより活発になるツールを、生徒が自ら選択していけるように事前指導の機会を充実させる。</p> <p>◇主に②について、一人一人の意見や考えを集約・共有し、課題を解決するような活用を促進する。</p>

<本プログラムの実行に向けて>

